

菩薩の精進

——菩薩地『精進品』の研究——

矢板秀臣

序

本稿は、『瑜伽師地論』の中、『菩薩地(Bodhisattvabhūmi)』第12章「精進品」(Vīryapaṭala. 略号 VīrP)の原典研究である。同品の和訳とサンスクリットテキスト(VīrP pp. 1^a-9^a)とを提示する。¹

『菩薩地』第9章「施品」から第14章「慧品」の六章において、六波羅蜜(布施、戒、忍辱、精進、静慮、智慧)が説かれ、そのうちの第四の精進が、本稿で扱う第12章「精進品」に説かれている。以下に触れられるように、六波羅蜜の中でも精進がたいへん重要視されており、興味深い。

「精進品」の構成は他の五章と同じように九節からなり、そして各節が同じように分類される²。即ち、(1)精進自性(vīryasvabhāva)、(2)一切精進(sarvavīrya)は二種あるいは三種とされ、(3)難行精進(duṣkara-)は三種、(4)一切門精進(sarvatomukha-)は四種、(5)善士精進(satpuruṣa-)は五種、(6)一切行相精進(sarvākāra-)は六種と七種で合計十三種、(7)困窮し求める者に対する精進(vighātārthika-)、(8)今世・他世を福楽とする精進(ihāmutrasukha-)、(9)清浄なる精進(viśuddha-)は十種、にそれぞれ分類される。但しこの中、理由は不明ながら、(7)困窮し求める者に対する精進と(8)今世・他世を福楽とする精進とは、「[前章「忍品」の]忍(kṣānti)と同様に理解すべき」と説かれるのみで、詳細なる説明はない。³

九節からなる精進品を要約すれば、以下のようである。

¹ 前稿『菩薩の忍』(矢板 2019)の場合と同じく、サンスクリット校訂本二本(W,Du)、サンスクリット写本三本(R,C,K)、チベット訳(Tib)、漢訳(Ch)、Sāgaremeghaの注釈書(BBhV、チベット訳のみ)を参照する。

² 布施品、静慮品、忍品については拙稿(矢板 2008、矢板 2011、矢板 2019)参照。

³ 忍品の(7)困窮し求める者に対する忍と(8)今世・他世を福楽とする忍については、拙稿(矢板 2019) pp.45-47 参照。

(1)精進自性(vīryasvabhāva)。菩薩の精進(vīrya)の本質は、一言で言えば、心の躍動(cittābhyutsāha)である⁴。それは、善法(kuśāladharma)を取得して菩提を得るために、そして一切衆生の利益(sattvārthakriyā)のために、正しく心を躍動させることであり、そしてこれにより引き起こされる身口意三業の働きである。

(2)一切精進(sarvavīrya)。本節は内容的に大変重要である。というのは、以下に示されるように、本節で説かれる三種の精進は、前節で説かれた精進の本質的な中身に深く関わるからである。

(2)(a)装備の精進(saṃnāhavīrya)。精進のための心構え、覚悟、心の装備が説かれるが、それは、精進の本質である心躍動(cittābhyutsāha)に基づくものとされる。衆生の苦しみを解き放つため、即ち、衆生の利益のためには、長い間地獄に住してでも、いかなる苦しみをとも顧みず努力して、無上正等菩提を證得しよう、という覚悟が、装備の精進である。

(2)(b)善法を取得する精進(kuśāladharmasamgrāhaviṛya)。一切の善法を取得する精進によって、無上正等菩提を證得することができる。菩提のための「最勝にして最上の因」であるとされる、善法を取得する精進は、七種とされる。即ち、不動(ācala)、堅固(gāḍha)、無量(aprameya)、方便相応(upāyaprayukta)、正等(samyak)、恒常(pratata)、無慢(vigatamāna)、である。

そして、六波羅蜜の中で精進の重要性を指摘し、「精進[こそ]が無上正等菩提へ[導き、證得させる]のである」という諸如来の言葉を引用していることは、特筆に値しよう。

(2)(c)一切衆生を利益するための精進(sattvārthakriyāvīrya)。究極の目標である衆生利益のための精進は、饒益有情戒と同じ十一種であるとされる⁵。

(3)難行精進(duṣkaravīrya)。衣類や飲食物などの日常必需品に対する執着を一切持たずに精進することが第一、そのような精進を生きている限り行うのが第二、緩み過ぎず勇まし過ぎずに衆生利益に役立っている精進が第三、これら三者が難行精進である。

(4)一切門精進(sarvatomukhavīrya)。四種とされ、第一の染汚の法を棄捨する精進と、第二の白淨の法を誘引する精進とは、内容的に四正勤(四正断)に相当するものである。さらに、第三の行動を清淨化する精進は、身口意の三業を清

⁴ 本稿和訳中の訳注3参照。

⁵ 十一種の饒益有情戒の詳細については拙稿(矢板2017)を参照されたい。

浄化し、第四の智慧を増大させる精進は、聞思修の三慧を完成させる。

(5)善士精進(*satpuruṣāvīrya*)。優れた精進ということで、五種が挙げられる。(i)途中で諦めて辞めたりすることがないから、棄捨されない(*anirākṛta*)精進であり、(ii)始まりから徐々に成長しているから、減退しない(*anyūna*)精進であり、(iii)継続して精力的であるから、劣弱でない(*alīna*)精進であり、(iv)衆生を利益するという基本を維持するから、無顛倒の(*aviparīta*)精進であり、(v)無上正等菩提に向かって邁進するから、加行勇猛なる(*uttaptaprayoga*)精進である。

(6)一切行相精進(*sarvākāravīrya*)。六種と七種の分け方があり、合計十三種である。まず、菩薩は、(i)常時行じるから、恒常なる(*sātatyā*)精進であり、(ii)一生懸命に行じるから、恭敬さるべき(*satkṛtyā*)精進であり、(iii)変化なく一様に続けられるから、等流の(*naiṣyandika*)精進であり、(iv)熟慮を欠かすことなく行じるから、最適なる(*prāyogika*)精進であり、(v)苦難に遭遇しても変わらず対処するから、悩乱なき(*akopya*)精進であり、(vi)少しばかりの進歩を喜んだりしないから、喜悅なき(*asaṃtuṣṭi*)精進である。以上の六種がある。

また菩薩は、(i')無上正等菩提に対して強い意欲を持ちそれをさらに強めるから、意欲(*chanda*)を伴う精進であり、(ii')いかなる煩惱によっても迷わされることがないから、平衡性の(*sāmyayukta*)精進であり、(iii')煩惱に囚われた者の心を救うものであるから、殊勝の(*vaiśeṣika*)精進であり、(iv')あらゆる学問分野を求め励むから、勤求の(*eṣaka*)精進であり、(v')求め得られた諸法を適宜実践するから、修学(*śikṣā*)の精進であり、(vi')衆生利益の実践を十一種行うから、利他の精進(*parārthakriyāvīrya*)であり、そして、(vii')実践の正しさを維持する精進である。以上の七種がある。

(7)困窮し求める者に対する精進(*vighātārthikavīrya*)と、(8)今世・他世を福樂とする精進(*ihāmutrasukhavīrya*)との二精進については、前述のように、「[前章「忍品」の]忍(*kṣānti*)と同様に理解すべき」と説かれるのみである。

(9)清浄なる精進(*viśuddhavīrya*)。十種あるとされる。(i)菩薩は随煩惱に対して適応する対治法を使用するから、適応する(*anurūpa*)精進である。内容的には五停心観が説かれる。即ち、食欲に対しては不浄観、瞋恚には慈愍観、愚痴には因縁観、思量には数息観、驕慢には界差別観、を適宜使用する。(ii)行を積み熟練しているから、積集した(*abhyasta*)精進である。(iii)初行者のように真剣に集中して行じているから、無弛緩(*aślatha*)の精進である。(iv)指導に忠実に従い

迷いなく行じるから、よく堅持された(sugr̥hīta)精進である。(v) 心の静止・活動・平静を適宜行うから、時間適合(kālaprayukta)の精進である。(vi) 心の静止・活動・平静や、三昧への入・出・住の在り方、やり方(行相)をしっかりと見極めて行じるから、行相通達(nimittaprativedha)の精進である。(vii) 不可思議で最高位の境地や実践に関する説明を聞いても怯えおののくことなく、またごく初歩の段階で達成感を得ても満足したりしないから、怯弱しない(alīna)精進である。(viii) 食についての量を知ることなど、三昧のための資糧を怠りなく行い、しかも衆生利益に資する努力をしているから、過誤のない(avidhura)精進である。(ix) 軽薄過ぎたり激し過ぎる精進をなさず、平穩に行をなすから、平穩なる(sama)精進である。(x) 自分で行った精進活動をすべて無上正等覺に廻向するから、正等に廻向される(samyakpariṇāmita)精進である。

以上の十種が清淨なる清淨である。

参考文献及び略号

<一次文献>

- BBh Bodhisattvabhūmi.
- BBhV Bodhisattvabhūmivivākhyā (Sāgaramegha). sDe dge edition. D. No. 4047. (P No.5548)
- C A Sanskrit manuscript of BBh. See Bendall 1883, Add.1702.
- Ch Chinese translation of BBh. Taishō Shinshū Daizōkyō No. 1579 (『大正新脩大藏經』第三十卷) .
- D sDe dge edition of the Tibetan Tripiṭaka. 『デルゲ版チベット大藏經 東京大学文学部所蔵』 .
- DāP Dānapaṭala, the 9th chapter of BBh. See 矢板 2008 (Text: pp.193-207 = pp.1^{*}-15^{*}).
- Du N.Dutt (ed.), *Bodhisattvabhūmiḥ, (being the XVth Section of Asaṅgapāda's Yogācārabhūmiḥ)*, Patna, 1978.
- K A Sanskrit manuscript of BBh. See Goshima/Noguchi 1983, No.74.
- P Peking edition of the Tibetan Tripiṭaka. 『影印北京版西藏大藏經』
- R A Sanskrit manuscript of BBh. See Bandurski 1994, No.28, Xc 14/29.
- ŚBh I Śrāvakabhūmi Study Group, *Śrāvakabhūmi, Revised Sanskrit Text and Japanese Translation, the First Chapter*, Tokyo, 1998.
- ŚBh II Śrāvakabhūmi Study Group, *Śrāvakabhūmi, the Second Chapter, with Asamāhitā bhūmiḥ, Śrutamayī bhūmiḥ, Cintāmayī bhūmiḥ, Revised Sanskrit Text and Japanese Translation*, Tokyo, 2007.
- Tib Tibetan translation of BBh. D No. 4037, P No. 5538.
- VīrP Vīryapaṭala, the 12th chapter of BBh. See the present paper (Text: pp. 1^{*}-9^{*}).
- W U. Wogihara (ed.), *Bodhisattvabhūmi, a Statement of whole Course of the Bodhisattva (being Fifteenth Section of Yogācārabhūmi)*, Tokyo, 1971 (repr.)

<二次文献>

- Bandurski 1994 Frank Bandurski, “Übersicht über die Göttinger Sammlungen der von Rāhula Sāṅkṛtyāyana in Tibet aufgefundenen

- buddhistischen Sanskrit-Text", In: *Untersuchungen zur buddhistischen Literatur*, Sanskrit-Wörterbuch der buddhistischen Texte aus den Turfan-Funden, Beiheft 5, Göttingen, pp. 9-126.
- Bendall 1883 C. Bendall, *Catalogue of the Buddhist Sanskrit Manuscripts in the University Library, Cambridge*, Cambridge.
- Goshima/Noguchi 1983 *A Succinct Catalogue of the Sanskrit Manuscripts in the Possession of the Faculty of Letters, Kyoto University*, compiled by Kiyotaka Goshima and Keiya Noguchi, Kyoto.
- 加藤 1932 加藤精神譯『瑜伽師地論』（国訳一切経、瑜伽部 三）、東京、1982(repr.).
- 釋 1994 釋惠敏『「声聞地」における所縁の研究』、東京。
- 声聞地 II = ŚBh II.
- 矢板 2008 矢板秀臣「菩薩の布施—『菩薩地』布施品の研究—」（成田山仏教研究所紀要 第 31 号, pp. 157-207）。
- 矢板 2011 同「菩薩の瞑想—『菩薩地』静慮品の研究—」（成田山仏教研究所紀要 第 34 号, pp. 79-105）。
- 矢板 2017 同「饒益有情戒について」（成田山仏教研究所紀要 第 40 号, pp. 27-55）。
- 矢板 2019 同「菩薩の忍—『菩薩地』忍品の研究—」（成田山仏教研究所紀要 第 42 号, pp. 31-61）。

『菩薩地』「精進品」和訳

総頌(uddāna)は、以前【の『戒品(sīlapaṭala)』等における】と同様に、理解すべきである¹。

(1) <精進自性(vīryasvabhāva)>

(問) これらのうち、菩薩の精進(vīrya)の自性(svabhāva)²とは何か。(答) 無量の善法(kuśaladharmā)を取得するために、そして【一切】衆生を利益する(arthakriyā)ために菩薩が燃やしている完全無欠で無顛倒の心躍動(cittābhyutsāha)³、そして、この【心躍動】によって引き起こされる【菩薩の】身・口・意【三業】の働き、これが菩薩の精進の自性である、と理解すべきである。

(2) <一切精進(sarvavīrya)>

(問) また、菩薩の一切精進(sarvavīrya)とは何か。(答) それは、一方では在家者(grhin)として関係する【精進】と、他方では出家者(pravrajita)として関係する【精進】の、総じて二種であると知るべきである。そして、その【在家者と出家者の】それぞれと関係する【二種の精進】おのおのが、【次のように】三種であると理解するべきである。即ち、(a)、装備の精進(saṃnāhavīrya)、(b)【自らは】善法(kuśaladharmā)を取得するための【精進】、そして(c)【他に対しては、一切】衆生を利益する(arthakriyā)ための【精進】である。

¹ 本稿後出のサンスクリットテキスト p.1*, 注 1 参照。また、矢板 2019 訳注 1 参照。

² 原文は svabhāvavīrya であるが、この項目、即ち(1)精進自性の最後には vīryasvabhāva とある。チベット訳はどちらも brtson 'grus kyi no bo ñid である。漢訳(Ch)は順に「自性精進」「精進の自性」であり、梵語原文に一致する。ちなみに本「精進品」の結文にも svabhāvavīrya とある(本稿末尾参照)。矢板 2019 訳注 2 (「忍品」冒頭部)も参照。

³ 本稿の第七・八節の中に次のようにある: yā tatra kṣāntiḥ seha vīryam abhyutsāho vaktavyaḥ (「そこ(前章)での忍が、ここ(本章)では精進、即ち【心の】躍動(abhyutsāha)と言われるべきものである」)。また、BBhV に「精進とは何か、[それは]善なる行いをするに心躍動することである」という言葉が某経典(筆者には不明)から引かれている(BBhV 186b2: brtson 'grus gañ ze na, dge ba'i las la sems spro ba'o zes bstan pa'i phyir ro.)。

また、「完全無欠で無顛倒の」という言葉について、BBhV は「精進を正しく行えば、如何なる過失も生じない」という偈頌を引用している(BBhV 186b7: brtson 'grus tshul bzin brtsoms pa la/ dka' ba cuñ zad yod ma yin/ zes bya ba'i tshigs su bcad pas so.)。

(2) (a) <裝備の精進(saṃnāhavīrya)>

そのうち、菩薩の裝備の精進(saṃnāhavīrya)は次のようである。ここに菩薩は、精進を企図する実践を行う直前に、次のように、心の躍動(abhyutsāha)に基づく[心の]裝備をなす：

「私は、ただ一人の衆生でも、その苦しみを解き放たんが為には、[自分が]千の大劫(mahākālpā)に等しい昼夜の間、実に地獄(naraka, 奈落)に住し[てもよい]、それ以外の所には住しない。諸菩薩が無上正等菩提(anuttarasamyakṣambodhi)を證得するまでの時間の百千万億倍もの[長い]時間をかけても、私は無上正等菩提を證得するであろう。そのようにして私は忍耐し、無上正等菩提を證得するための実践努力をしないということはない。そして実践努力する私は、精進を解き緩めるようなことは決してしない。ましてや、より短い時間、より小さい苦しみであれば、言うまでもない。」

以上、かくの如きが菩薩の裝備の精進(saṃnāhavīrya)である。或る菩薩が、諸菩薩のかくの如き裝備の精進に対して、わずかの勝解(adhimukti)、わずかの淨信(prasāda)を発起するとすれば、彼はすでに[実に不退転の]4勇者たる菩薩であって、まさに菩提の為の無量の精進発動の根を養育しているのである5。況や、まさに前述の如き裝備の精進を具足する菩薩ならば尚更である。そして、この菩薩にとって、[彼自身の]菩提のため、そして諸衆生の利益(artha)のために、行うに困難な行為、即ち、この菩薩の心が萎縮してしまうような[行為]、或いは、[彼にとって]行うのが不可能な[行為]は、一切存在しない。

(2) (b) <善法を取得する精進(kuśaladharmaśaṃgrāhakaṃ vīryam)>

(問) 次に、諸菩薩の、善法を取得する精進とは何か。(答) それは、布施波羅蜜(dānapāramitā)を成就するために布施波羅蜜の加行を行う精進であり、[戒波羅蜜]乃至般若波羅蜜(prajñāpāramitā)を成就するために戒・忍辱・精進・禪定・般若波羅蜜の加行を行う精進である。

そしてその[善法を取得する精進]は、総じて七種であると理解するべきである。(i)一切如何なる想念・分別・煩惱・随煩惱・異論・苦渋によっても動じることがないから、不動(acala)の[精進]である。(ii)尊崇[の心]で行じているから、堅固(gāḍha)の[精進]である。(iii)一切の学問(vidyāsthāna, 明処)の成就を現前しているから、無量

4 Cf. BBhV 188a1: "de yañ brtan po yin te" ṣes bya ba ni phyir mi ldog ciñ brtan por 'gyur ba ste. 「『彼は勇者(dhīra)である』とは、不退転の勇者であること」。

5 Cf. BBhV 188a1-2: "rgyu yōṃs su rtas par byed pa yin na" ṣes bya ba la byañ chub kyi don du brtson 'grus brtsams pas sa bon bskrun pa ṣes bya ba'i don to. 「『根を養育している』とは、菩提のために精進発動の種子を植えていること」。

(aprameya)の[精進]である。(iv)到達すべき目標が[そのための]矛盾無き方法に沿っており、そして平等の知見によっているから、方便相応(upāyaprayukta)の[精進]である。(v) [諸衆生の]利益となる(arthopasaṃhita)事柄を目標に達成せんとして、その達成が願われているから、正等の精進(samyagvīrya)である。(vi)永続的に行じられるから、恒常(pratata)の[精進]である。(vii)その精進の実践によって僣慢にならないから、無慢(vigatamāna)の[精進]である。

以上これら七種類[の精進]によって、諸菩薩が善法を取得せんと精進の実践に勤めれば、速やかに、[六]波羅蜜の成就と無上正等菩提の證得を実現する。菩提を成ずるための一切の善法をこのように[完璧に]獲得するには、精進こそが最勝にして最上の因であって、それ以外はそうではないのであり、だから、「精進[こそ]が無上正等菩提へ[導き、證得させる]のである」と、諸如来が度々お説きになられているのである⁶。

(2) (c) <衆生を利益するための精進(sattvārthakriyāvīrya)>

諸菩薩の、衆生を利益するための精進は、戒品において[説かれた饒益有情戒]と同様に、また十一種である、と理解すべきである⁷。その[戒品]において言われた戒[、即ち、十一種の饒益有情戒]が、ここ[精進品]において[十一種の]精進として説かれればよい。それ[だけ]の違いである。

(3) <難行精進(duṣkaravīrya)>

(問) 次に、菩薩の難行精進とは何か。(答) それは、三種であると理解すべきである。

(i) 菩薩は常々、衣類への執心(saṃjñā)、飲食物への執心、坐臥具への執心、自己自身への執心を決して持つことなくして、善法(kuśaladharmā)に関する連続した修習に従事する。これが菩薩の第一の難行精進である。

(ii) また菩薩は、人間たること(nikāyasabhāga, 衆同分)を失うに至るまでの間、一切時に、そのような精進の実践に勤める。これが菩薩の第二の難行精進である。

(iii) また、菩薩の行う精進が、平等の知見という功德を具足しており、緩み過ぎず、勇まし過ぎず、無茶苦茶でなく、[人の]利益に役立っている(arthopasaṃhita)、そういう[精進]が、菩薩の第三の難行精進である。

⁶ Cf. BBhV 188b5: 「『諸如来が度々お説きになられている』とは、『阿難よ、精進が最勝の菩提因である』と經典に説かれているからである」(本稿テキスト注 40 にチベット訳文)。

⁷ 饒益有情戒(sattvārthakriyāśīla, sattvānugrāhakaṃ śīlam)については矢板 2017 など参照。また本稿(精進品)の中、後の(6) <一切行相精進(sarvākāraṃ vīryam)>の中に、(vi') 利他の精進(parārthakriyāvīrya)が挙げられ、同じように十一種とされている。

実に諸菩薩がこの[三種からなる]難行精進を保持できる理由は、[菩薩の]力量(bala)と⁸、諸衆生に対する慈愛(karuṇā)と⁹、そして般若智(prajñā)である¹⁰、と認識すべきである。

(4) <一切門精進(sarvatomukhaṃ vīryam)>

(問) 次に、菩薩の一切門精進とは何か。(答) それは四種であると理解すべきである。即ち、(i) 染汚の法を棄捨する[精進]、(ii) 白淨の法を誘引する[精進]、(iii) 行動(業)を清淨化する[精進]、(iv) 智慧を増大にする[精進]である。

(i) 菩薩の、染汚の法(kliṣṭadharmā)を棄捨する精進は、未だ生じていない結縛(samyojana)、繫縛(bandhana)、隨眠(anuśaya)、隨煩惱(upakleśa)、纏縛(paryavasthāna)を生じないようにさせ、また、生じてしまっていれば、[生じたそれら]を断滅させるものである¹¹。

(ii) 菩薩の、白淨の法(śukladharma)を誘引する精進は、未だ生じていない善法を生じさせ、また、既に生じている[善法]を持続させ、忘失させず、成長増大させる精進である。

(iii) 菩薩の、行動を清淨化する(karmapariśodhaka)精進は、[身・口・意の]三業を清淨となし、善なる身業・口業・意業を受持するためのものである。

(iv) 菩薩の、智慧を増大させる(jñānavivardhaka)精進は、聞(śruta)・思(cintā)・修(bhāvanā)からなる智慧(三慧)を成就させ、円熟させるものである¹²。

(5) <善士精進(satpuruṣavīrya)>

(問) 次に、菩薩の善士精進とは何か。(答) それは五種であると理解すべきで

⁸ Cf. BBhV 188b7: lus kyi mthu dañ stobs thob par gyur bas lus dañ srog la ltos pa med par sbyor bar byed do źes bya ba'i rgyu dañ po'o. 「身体の[真の]威力と力量を獲得することにより、身体や生命に依存せず能力[を発揮]できる、というのが[難行精進のための]第一の理由である」。

⁹ Cf. BBhV 188b7-189a1: sems can mams la sñiñ rje'i stobs brtan po thob par gyur bas sems can mams kyi sdug bñal bsal bar bya ba'i phyir ji srid 'tsho'i bar du sbyor bar źes bya ba ni sñiñ rje'i sbyor ba te, brtson 'grus kyi rgyu gñis pa'o. 「諸衆生に対する慈悲の堅固なる力量を獲得することにより、諸衆生の苦悩を取り除くために命のある限り能力[を発揮]できる、というのが慈悲の能力であり、これが[難行]精進のための第二の理由である」。

¹⁰ Cf. BBhV 189a1-2: skyes śiñ skyes pa'i ñion moñs pa mams yoñs su śes par rab tu sbyor bas kun nas ñion moñs pa med pa'i brtson 'grus źes bya ba ste, mñam pa ñid kyi brtson 'grus kyi rgyu' ni śes rab yin no. 「次から次と生じてくる諸煩惱を悉く了知することができるから、無染汚なる精進となる。そういう意味で、平等性の精進のための理由が般若智(prajñā)である」。(『P om. kyi rgyu.』)

¹¹ BBhV(189a3ff.)にあるように、四正勤(四正断)が説かれていると考えられよう。即ち、(i) 染汚の法を棄捨する精進は、四正勤の前二者に相当し、(ii) 白淨の法を誘引する精進は、その後二者に相当する。

¹² Cf. BBhV 189a6: ma skyes pa las skyes pa ni "yañ dag par sgrub pa (samudāgamāya)" źes bya 'o, skyes pa mams khyad par du 'gro ba ni "rnam par 'phel par byed pa (vivṛddhaye)" 'o.

ある。即ち[諸菩薩の精進は]、(i) 志欲(chanda)と加行(prayoga)を決して一切棄捨しないから、棄捨されない(anirākṛta)[精進、これが第一の善士精進]である。(ii) [初めに]受持した[精進]と等しい、または増長しつつ精進が順々に増養するから、減退しない(anyūna)[精進、これが第二の善士精進]である。(iii) 精力的で長時間連続の精進の励行に対して心が脆弱になったり落胆したりしないから、劣弱でない(alīna)[精進、これが第三の善士精進]である。(iv) [衆生の]利益をなす(arthopasamhita)ための方便を維持しているから、無顛倒の(aviparīta)[精進、これが第四の善士精進]である。(v) 無上正等菩提に迅速に[進む]から、諸菩薩の精進は、加行勇猛なる(uttaprayoga)[精進、これが第五の善士精進]である。

(6) <一切行相精進(sarvākāraṃ vīryam)>

(問) 次に、菩薩の一切行相精進(sarvākāraṃ vīryam)とは何か。(答) これには六行相と七行相とがあり、一つに合わせれば十三行相であると理解するべきである。

(i) [第一は]恒常なる(sātatyā)精進である。なぜなら[菩薩は]常時行じているから。(ii) [第二は]恭敬さるべき(satkrītya)精進である。なぜなら懸命に行じるから¹³。(iii) [第三は]等流の(naiṣyandika)精進である。なぜなら[自身]直前の因力を受け取っているから。(iv) [第四は]最適なる(prāyogika)精進である。なぜなら[十分良く]考慮して考慮して善品(kuśalapakṣa)を行じるから。(v) [第五は]悩乱なき(akopya)精進である。なぜなら、[菩薩は]如何なる苦悩に遭遇しても悩まされず不変にして受け入れるから。(vi) [第六は]喜悅なき(asamtuṣṭi)精進である。なぜなら、極く僅かで極上でない殊勝性を得たとしても[菩薩は]喜悅したりしないから。

以上が、まず六種の一切行相精進である。これらを具足した菩薩は、善品に向かって、精進を發起して勢力あり、勇猛果敢であり、堪能であり、武勇堅固であり、休まず邁進する。

さらに七種の[精進]がある。(i') [第一は]菩薩の意欲(chanda)を伴う精進である。なぜなら[菩薩は]無上正等菩提に対しての激しい意欲と誓願を繰り返し増強させるから。(ii') [第二は]平衡性の(sāmyayukta)精進である。というのは、いかなる煩惱・随煩惱によっても心が汚染されず[それらに]纏わり付かれることのない[菩薩]の[精進]であるから、この精進により菩薩は、諸善法に対して均等の心で向かっている。(iii') [第三は]菩薩の殊勝の(vaiśeṣika)精進である。その精進は、何らかの[煩惱・]随煩惱によって心が汚染され心が纏わり付かれている者から、その[煩惱・]随煩惱を破壊してやろうと[菩薩が]、燃えている頭を消火[し一氣に救済]するが

¹³ Cf. BBhV 189b3: 'dun pa drag po(Skt. tīvracchanda?)'i sbyor ba dañ ldan pas gus pa'i brtson 'grus (satkrītyavīryam) 'jes bya'o. 「熱烈なる行を為すから、恭敬さるべき(satkrītya)精進である」。

如きことである。(iv') [第四は]菩薩の勤求の(cṣaka)精進である。なぜなら、一切の学問分野(vidyāsthāna 明處)を勤求し[て止まない]から。(v') [第五は]菩薩の修学の精進(śikṣāvīrya)である。なぜなら[菩薩は]、勤求されたまさにそれら諸法に対して、相応に、適宜に、法に順じた法の実践を成就するから。(vi') [第六は]菩薩の利他の精進(parāṇthakriyāvīrya)であり¹⁴、以前[述べられた]ように十一種であると理解すべきである¹⁵。(vii') [第七は]菩薩自身の正加行(samyakprayoga)を護持するための[精進]であり、[正加行を]逸脱した場合には[正]法に順じた[正しい方へ]戻すための[精進]、これが菩薩の第七の精進である¹⁶。

以上、これら十三種からなる[精進]が、菩薩の一切行相精進(sarvākāraṃ vīryam)である。

(7) <困窮し求める者に対する精進(vighātārthikavīrya)>

(8) <今世・他世を福樂とする精進(ihāmutrasukhavīrya)>

諸菩薩の、困窮し求める者に対する精進(vighātārthikavīrya)と、今世・他世を福樂とする精進(ihāmutrasukhavīrya)とは、[前章「忍品」の]忍(kṣānti)と同様に理解すべきである。その[忍品]との違いは次のことである。即ち、そこ(前章「忍品」)での忍が、ここ(本章「精進品」)では精進、即ち[心の]躍動(abhyutsāha)、と言われるべきものである¹⁷。

(9) <清浄なる精進(viśuddhavīrya)>

(問) 次に、菩薩の清浄なる精進(viśuddhavīrya)とは何か。(答) それはまとめて十種であると理解すべきである。即ち、(i) 適応する(anurūpa)[精進]、(ii) 積集した[精進]、(iii) 無弛緩の[精進]、(iv) よく堅持された[精進]、(v) 時間適合の[精進]、(vi) 行相通達[の] [精進]、(vii) 怯弱しない[精進]、(viii) 過誤のない[精進]、(ix) 平穩なる[精進]、(x) 正等に廻向される[精進]である。

(i) 菩薩は、あれこれの随煩惱(upakleśa)に甚だしく悩まされれば、それぞれの随

¹⁴ Cf. BBhV 190a3: sems can thams cad gyi don gyi bya ba dan ldan pa'i phyir "pha rol gyi don byed pa'i brtsom 'grus (parāṇthakriyāvīrya)" 'zes bya 'o. 「一切衆生に対する利益をなすから『利他の精進』である」。

¹⁵ 本稿『精進品』の第二節「(2) 一切精進(sarvavīrya)」の中、(2) (c) <衆生を利益するための精進(sattvārthakriyāvīrya)>の項を参照。そして本稿と訳の注7も参照。

¹⁶ BBhV (190a5) はこの第七の精進を「修学を護持する精進」(bslab pa rjes su sruṇ ba'i brtsom 'grus)とも呼んでいる。

¹⁷ 心の躍動(cittābhyutsāha)については、本稿『精進品』の第一節「(1) 精進自性(vīryasvabhāva)」参照。

煩惱を破壊するために、適応する(anurūpa)対治法(pratipakṣa)を使用する。即ち¹⁸、貪欲(kāmarāga)の対治法として[それに対して適応する]不浄[観](aśubhā)を修し¹⁹、瞋恚(vyāpāda)の対治法として[それに適応する]慈愍[観](maitrī)を[修し]²⁰、愚痴(moha)の対治法として[それに適応する]縁性縁起[観](idaṃpratyayatāpratītyasamutpāda²¹)を修し²²、思量(vitarka)の対治法として[適応する]入出息念(ānāpānasmṛti)を[修し]²³、驕慢(māna)の対治法として[適応する]界差別[観](dhātuprabheda)を修する²⁴。以上かくの如きが、菩薩の「適応する(anurūpa)精進」と言われる。

(ii) 菩薩は、初行者・始行者らの[浅薄な]精進を持ち合わせてはいない。即ち、只々、教授教誡(avavāda-anuśānanī)することに心を安住させようとしつつ、行を積集し、行に熟練している。以上かくの如きが、菩薩の「積集した(abhyasta)精進」と言われる。

(iii) また、菩薩が、教授教誡することに心を安住させようと行を積集することなく、まるで初行者のように[行じて]いても、しかし[真実には]菩薩は、永続的に、そして尊崇[の心]で行じているから、その行に対して弛緩することなく行じている。以上かくの如きが菩薩の「無弛緩(aślatha)の精進」と言われる。

(iv) また、菩薩が、尊師(guru)[の指導]により、あるいは自ら[の意志で]、多聞の力(bāhuśrutyabala)の所持により、また無顛倒[の心]の保持により、心の安住(cittasthiti)のために精進に励む。以上かくの如きが菩薩の「よく堅持された(sugṛhita)精進」と

¹⁸ 次には、いわゆる五停心観が提示される。つまり、不浄観、慈愍観、因縁観、数息観、界差別観である。声聞地においては、貪、瞋、痴、慢、尋思という邪心を浄化する浄行所縁(caritaviśodhanam ālambanam)としてこれら五つが説かれている。これについては、釋 1994 (特にはその第二章、中でも第七節から不浄観、慈悲観、数息観が詳述されている)、並びに声聞地 II (特に p.VIII; pp.58-107)を参照。

¹⁹ Cf. ŚBh II 62,17: itīyam aśubhatā rāgacaritasya viśuddhaya ālambanam. 「以上この不浄[観]は、貪を行じるものを浄化するための所縁である」。

²⁰ Cf. ŚBh II 70,15-16: vyāpādacaritaḥ pudgalo maitrīm bhāvayan sattveṣu yo vyāpādas tam pratanūkaroti, vyāpādac cittam pariśodhayati. 「諸衆生の中にあって瞋恚を行じる者は、慈愍[観]を修しては、その瞋恚を脆弱化させ、瞋恚から心を浄化させる」。

²¹ Cf. Tib: rkyen 'di pa ṅid kyi rten ciñ 'brel bar 'byuñ ba.

²² Cf. ŚBh II 70,21-72,3: idaṃ ucyate idaṃpratyayatāpratītyasamutpādālambanam, yad ālambanam manasikurvan mohādhikāḥ pudgalo mohacarito moham prajāhāti tanūkaroti mohacaritāc cittam viśodhayati. 「以上が縁性縁起[観]なる所縁であり、この所縁を心していれば、愚痴が過剰で愚痴を行じる者は愚痴を放棄し脆弱化させ、愚痴の横行から心を浄化させる」。

²³ Cf. ŚBh II 106,9-15: ayam asyocayate ṣoḍaśākārah paricayaḥ, yaś cāyam pañcavidhaḥ paricayaḥ, iyaṃ asyocayate ānāpānasmṛtiḥ. idaṃ pañcamam vitarkacaritasya pudgalasya caritaviśodhanam ālambanam. 「以上が彼にとっての十六行相の修習(Cf. ŚBh II 94,21ff.)であり、五種の修習(Cf. ŚBh II 84,16ff.)である。これが彼の入出息念と言われる。以上が第五の[所縁、即ち]、思量を行じる者にとっての浄行所縁である」。

²⁴ Cf. ŚBh II 80,1-2: ayam ucyate dhātuprabhedaḥ, mānacaritasya pudgalasya caritaviśodhanam ālambanam. 「以上が界差別であり、驕慢を行じる者にとっての浄行所縁である」。

言われる。

(v) さらに、そのように無顛倒[の心]を保持しては、菩薩は、[心を鎮める]止(samatha)の時には止を修し、[心を動かす]挙(pragraha)の時には心を起こし、[心を平等にする]捨(upekṣā)の時には捨を修する。以上かくの如きがかの[菩薩の]「時間適合(kālaprayukta)の精進」と言われる。

(vi) さらに、菩薩が、止(samatha)と挙(pragraha)と捨(upekṣā)の行相と、三昧(samādhi)[への入(pravṛtti)²⁵]と住(sthiti)と出(vyutthāna)の行相を、見極め、亡失せず、通達せんがために、永続的に、尊崇[の心]で行じている。以上かくの如きが菩薩の「行相通達(nimittapratiśedha)の精進」と言われる。

(vii) さらに、菩薩が、最高に広く、最高に深く、不可思議、不可思量なる、諸菩薩が[行う]精進実践についての説明を聞いても、自らを輕侮することなく、心が怯弱することはない。また、ごく僅かな、ごく少量の優越を得ても満足することではなく、さらに邁進努力しないようなことはない。以上かくの如きが菩薩の「怯弱しない(alīna)精進」と言われる。

(viii) さらに、菩薩がその時々において²⁶、感官により[感覚の]門を守ること²⁷、食について量を知ること、初夜・後夜に覚悟して[瑜伽を]修習すること、正知しつつ住すること[など]、これらの三昧の資糧(samādhisaṃbhāra)を受持しながら、それら[資糧]に奮励努力し、あらゆるところで、間違いなく[衆生の]利益に資する(arthopasaṃhita)努力を行っている。以上かくの如きが菩薩の「過誤のない(avidhura)精進」と言われる。

(ix) さらに、菩薩は、怯弱過ぎる[精進]や激烈過ぎる精進を行なうことなく、平穩に行をなし、そして、行うべき一切の所作に対して平穩に尊崇して行っている。以上かくの如きが菩薩の「平穩なる(sama)精進」と言われる。

(x) さらに、菩薩は、[自分で]行った一切の精進の活動を、無上正等覺に廻向する。以上かくの如きが菩薩の「正等に廻向される(samyakpariṇāmita)精進」と言われる。

以上このような、(1)自性精進(svabhāvavīrya)を[精進品の]第一[節]とし、(9)清淨精

²⁵ 「入」の語はサンスクリット原文にはないが、チベット訳と漢訳にはある。Cf. Tib: tin'ne 'dsin la 'jug pa; Ch: 入。

²⁶ 以下に列挙される三昧(samādhi)の資糧(saṃbhāra)については、声聞地に詳しい。Cf. ŚBh I 31*, 2ff.: tatra saṃbhārah katamaḥ. tadyathā^a ātmasampat, parasampat, kusalo dharmacchandaḥ, śīlasaṃvaraḥ, indriyasaṃvaraḥ, bhojane mātṛajñatā, pūrvarātrāpararātram jāgarikānuyuktatā, saṃprajñānavihāritā, kalyāṇamitratā, Cf. ŚBh I 4*, 21ff; .

²⁷ Cf. ŚBh I 50*, 2-3: indriyasaṃvaraḥ katamaḥ. yathāpīṇaikatyah^a indriyair guptadvāro viharaty āraṅkṣitasmtīr nipakasmīr itī vistarāḥ.

進(viśuddhāvīrya)を最後[の節]として[述べられてきた]諸菩薩の精進(vīrya)は、大菩提(mahābodhi)を結果するが、これ(=精進)に基づいて諸菩薩は、精進波羅蜜を円満しては、無上正等菩提を[過去に]證得し、[これから]證得するであろうし、[今現在]證得しつつあるのである。

以上で、『菩薩地』の中、基盤たる瑜伽處の第十二「精進品」は終わる。

**Text of the *Vīrya* Section,
the 12th Chapter of the *Bodhisattvabhūmi***

(W p.200; Du p.138; R 136b2; C 80b3; K 137b3; Tib D 107a4; Tib P 118b5; Ch 525c2;
5 BBhV D 186b1; P 230b2)

uddānaṃ pūrvavad veditavyam.¹

(1) < *vīryasvabhāva* >

- 10 tatra katamad bodhisattvasya svabhāvavīryam. yo bodhisattvasya cittābhyutsāho
'prameyakuśāladharmasamgrahāya² sattvārthakriyāyai³ uttapaś ca niśchidraś cāvi-
paryastaś ca, tatsamutthitaś ca³ kāyavānmanahparispandaḥ⁴, ayaṃ bodhisattvasya
vīryasvabhāvo veditavyaḥ.

- 15 (2) < *sarvakṣānti* >

tatra katamad⁵ bodhisattvasya sarvavīryam. tat samāsato dvividhaṃ veditavyam,
⁶grhipakṣāśritam pravrajitapakṣāśritam ca. tat punar ubhayapakṣāśritam api trividhaṃ
veditavyam, (a) samnāhavīryam (b) kuśāladharmasamgrāhakaṃ⁷ (c) sattvārthakriyāyai ca.

- 20 (2)(a) < *samnāhavīrya* >

tatredaṃ bodhisattvasya samnāhavīryam. iha bodhisattvaḥ pūrvam eva

¹ Cf. BBh W p.137,1-8 (*Śīlapāṭala*): uddānaṃ. svabhāvaś caiva sarvaṃ ca duṣkaraṃ sarvatomukhaṃ/ syāt
sātpauruṣyayuktaṃ ca sarvākāraṃ tathaiva ca// vighātārthikayuktaṃ ca ihāmutrasukhaṃ tathā/ viśuddhaṃ
ca navākāraṃ śīlam etat samāsataḥ // (= DāP I*,5-9, W 114,1-7). Ch 525c3-11: 云何菩薩精進波羅蜜多。
嚧陀南曰。自性一切難 一切門善士 一切種遂求 二世樂清淨。如是九種相名略說精進。謂九種相精進
名爲菩薩精進波羅蜜多。一者自性精進。二者一切精進 三者難行精進。四者一切門精進。五者善士精進。
六者一切種精進。七者遂求精進。八者此世他世樂精進。九者清淨精進。 Cf. DāP I*,13-16: navākāraṃ
dānaṃ bodhisattvasya dānapāramitety ucyate. svabhāvadānaṃ sarvādānaṃ duṣkarādānaṃ sarvatomu-
khaṃ dānaṃ satpuruṣādānaṃ sarvākāradānaṃ vighātārthikadānaṃ ihāmutrasukhaṃ dānaṃ viśuddhadānaṃ
ca.

² C: prameyaḥ for 'prameya-.

³ K,R om. ca.

⁴ Du: -manah parispandaḥ.

⁵ C om. ta.

⁶ C,K: grhipakṣā-.

⁷ Tib: dge ba'i phyogs kyi chos sdud pa.

vīryārambhaprayogād evaṃ cetaso 'bhyutsāhapūrvakam⁸ saṃnāham saṃnāhyate⁹ :

"saced aham ekasattvasyāpi duḥkhavimokṣahetor mahākālpasahasratulyai¹⁰
rātrindivasair¹¹ narakavāseṇaiva nānyagativāseṇa, yāvātā kālena bodhisattvā anuttarāṃ
samyaksaṃbodhim abhisambudhyante tenaiva koṭīniyutaśatasahasraguṇitena¹²
5 kālenāham¹³ anuttarāṃ samyaksaṃbodhim āśādayeyam¹⁴. tathāpi cotsaheyam, na
nānuttarāyāḥ¹⁵ samyaksaṃbodher arthena prayujyeyam.¹⁶ na ca prayukto vīryaṃ
sraṃsayeyam¹⁷, prāḡ eva¹⁸ nyūnatareṇa kālena tanutareṇa ca duḥkhena".

idam evaṃrūpaṃ bodhisattvasya saṃnāhavīryam. yo bodhisattva evaṃrūpe¹⁹
bodhisattvānāṃ saṃnāhavīrye 'dhimuktimātrakaṃ prasādamātrakaṃ apy utpādayet so 'pi
10 tāvad bodhisattvo dhīro 'pramāṇasya bodhāya vīryārambhasya dhātum paripoṣayet, prāḡ
eva yo²⁰ ^(w201) bodhisattva idr̥ṣeṇaiva saṃnāhavīryeṇa samanvāgataḥ syāt. na ca punas
tasya bodhisattvasya bodher arthe sattvānāṃ arthāya kiṃcid asti duḥkaram²¹ karaṇīyaṃ
karma, yatrāsyā bodhisattvasya saṃkoco vā syāc cetaso duḥkaram vā kartum.

15 (2)(b) < kuśāladharmasaṃgrāhakaṃ vīryam >

tatra katamad bodhisattvānāṃ kuśāladharmasaṃgrāhakaṃ²² vīryam. yad vīryaṃ
dānapāramitāprāyogikaṃ²³ dānapāramitāsamudāgamāya yad vīryaṃ śīlakṣāntivīrya-
dhyānaprajñāpāramitāprāyogikaṃ²⁴ <Du139> yāvat²⁵ prajñāpāramitāsamudāgamāya²⁶.

⁸ R om. ṃ.

⁹ C,K,W: saṃnāhyati.

¹⁰ K: -tulyau.

¹¹ K: rātrindivair narakavāseṇaiva; Du: rātrindivasaimaṇṇarakavāseṇaiva.

¹² C,K,W om. niyuta. Tib: bye dag phrag 'bum 'gyur srid kyis.

¹³ K: kālenāhatam anuttarāṃ.

¹⁴ K: āśādayeyam.

¹⁵ R,C,K: na cānuttarāyāḥ Tib: bla na med pa yañ dag par rdsogs pa 'i byañ chub gyi phyir mi brison par mi byed la.

¹⁶ K: prayujyeya naṃ ca prayukto.

¹⁷ Du: na ca prayuktavīryaṃ sraṃsayeyam(sic.). Tib: btson 'grus la žugs pa la yañ 'dor bar mi byed na.

¹⁸ K: prāḡ eva natareṇa kālena tatratatāreṇa ca ...

¹⁹ Du om. ṃ.

²⁰ C,W om. yo. Tib: byañ chub sams dpa' gañ.

²¹ R,K om. ṃ.

²² C om. dharma.

²³ K: -prayogikaṃ.

²⁴ C om. vīrya.

²⁵ C,W om. yāvat. Tib: šes rab kyi bar du yañ dag par 'grub par bya ba 'i phyir.

- tat punaḥ samāsataḥ saptākāraṃ veditavyam. (i) acalaṃ ²⁷ sarvakalpavikalpa-
kleśopakleśaparapravādiduḥkhasaṃsparśair avicālyatvāt ²⁸. (ii) gāḍhaṃ satkṛtya-
prāyogikatvāt ²⁹. (iii) aprameyaṃ sarvavidyāsthānasamudāgamapratyupasthānatvāt ³⁰.
(iv) upāyaprayuktaṃ ³¹ prāptavyasyārthasyāvīparītamārgānugatatvāt samatāprativedhāc ca.
5 (v) samyagvīryam arthopasaṃhitasya prāptavyasyārthasya prāptaye praṇihitatvāt. (vi)
pratataṃ ³² sātatyaprayogitvāt. (vii) vigatamānaṃ tena vīryārambheṇānunnamanāt ³³.
ity ebhiḥ ³⁴ saptabhir ākāraiḥ kuśaladharmasaṃgrahāya vīryārambhaprayogo
bodhisattvānāṃ kṣipraṃ pāramitāparipūraye 'nuttarasamyaksambodhyadhigamāya ³⁵
saṃvartate. yataś ca sarveṣāṃ ³⁶ bodhikarākāṇāṃ ³⁷ kuśalānāṃ dharmānāṃ ³⁸ evaṃ
10 samudāgamāya vīryam eva pradhānaṃ ³⁹ śreṣṭhaṃ kāraṇaṃ na tathānyat. tasmād
"vīryam anuttarāyai samyaksambodhaye" itī nirdiśanto nirdiśanti ⁴⁰ tathāgataḥ.

(2)(c) < sattvārthakriyāvīrya >

- sattvārthakriyāvīryaṃ punar bodhisattvānāṃ veditavyam ekādaśaparakāraṃ, tadyathā
15 śīlapāṭale. yat tatra ^(W202) śīlaṃ uktaṃ tad iha vīryaṃ vaktavyam. ayaṃ ⁴¹ viśeṣaḥ.

(3) < duṣkaravīrya >

tatra katamad bodhisattvasya duṣkaravīryam. tat trividhaṃ draṣṭavyam.

²⁶ K: -samudāgamāyaḥ.

²⁷ C om. vikalpa. K: -vikalpakeśopakleśa-.

²⁸ K: -saṃsparśairādhicālyatvāt.

²⁹ Du: satkṛtya prayogitvāt. Cf. below, (6) (ii) satkṛtyavīryam, (9) (iii): sātatyasatkṛtyaprayogitayā.

³⁰ K om. t and reads -sthānatvā.

³¹ C, W om. pra.

³² R om. ṃ. Cf. below, (6) (i) sātatyavīryaṃ; (9) (iii): sātatyasatkṛtyaprayogitayā.

³³ C: -rambheṇānunnavigamanā. Tib: mtho bar sems pa med pa'i phyir na rgyal med pa ste.

³⁴ C om. ḥ.

³⁵ K: 'nuttarasamyak-. C: -saṃbodhigamāya. W: -saṃbodhi-gamanāya.

³⁶ R om. ṃ. Tib has no equivalent for sarveṣāṃ.

³⁷ R: bodhikarākāṇāṃ. Tib: byaṅ chub sems dpa'i (= bodhisattva?).

³⁸ C: dharmānāṃ.

³⁹ R om. ṃ.

⁴⁰ R, Du om. nirdiśanto. C, W: iti nirdiśanto nirdiśanti, K: iti nirdiśanto(sic.) nirdiśanti. Tib: de bzin gśegs pa mams kyiś bstan pas ston par mdsad do. Ch: 是故如來以種種門稱讚. Cf. BBhV 188b5: "bstan pas ston par mdsad do" 'zes bya ba ni "kun dga' bo brtson 'grus ni byaṅ chub kyi rgyu'i gtso bo'o" 'zes mdo sde nas bstan pa'i phyir ro.

⁴¹ K om. ṃ.

(i) yad bodhisattvo nairantaryeṇa cīvarasaṃjñā⁴² piṇḍapātasamjñā⁴³ śayanāsana-samjñā⁴⁴ apy ātmasamjñā⁴⁵ akurvan kuśaleṣu dharmeṣu bhāvanāśātyena prayukto bhavati, idaṃ bodhisattvasya prathamam duṣkaravīryam.⁴⁶

5 (ii) punar bodhisattvas tena tathārūpeṇa vīryārambheṇa⁴⁷ ā nikāyasabhāganikṣepāt sarvakālam prayukto bhavati. idaṃ dvitīyam bodhisattvasya duṣkaravīryam.

(iii) punar bodhisattvaḥ samatāprativedhaguṇayuktena nātilīna⁴⁸ nātyārabdhenā-viparītenārthopasaṃhitena vīryeṇa samanvāgato bhavati. idaṃ bodhisattvasya tṛtīyam duṣkaravīryam⁴⁹ veditavyam.

10 ⁴⁷ asya khalu bodhisattvānām duṣkaravīryasya balaṃ sattveṣu karuṇā prajñā ca saṃgrahaheṭur⁴⁸ veditavyaḥ.

(A) < sarvatomukhaṃ vīryam >

tatra katamad bodhisattvasya sarvatomukhaṃ vīryam. tac caturvidhaṃ draṣṭavyam: (i)kliṣṭadharmavivarjakaṃ (ii)śukladharmāvarjakaṃ (iii)karmapariśodhakaṃ (iv) jñāna-
15 vivardhakaṃ ca.

(i) tatra kliṣṭadharmavivarjakaṃ bodhisattvasya vīryam anutpannānām ca saṃyojanabandhanānuśayopakleśaparyavasthānānām anutpādāya⁵⁰ utpannānām⁴⁹ ca prahāṇāya.

20 (ii) tatra śukladharmāvarjakaṃ bodhisattvasya^(Du140) vīryam⁵⁰, yad⁵¹ anutpannānām ca kuśalānām dharmānām utpattaye⁵² vīryam, utpannānām ca sthitaye 'saṃmoṣāyai⁵³ vṛddhivipulatāyai yad vīryam.

⁴² R om. ṃ.

⁴³ C repeats śayanāsanasamjñā⁴⁴ apy ātmasamjñā.

⁴⁴ C, W: duṣkaraṃ vīryam. . W om. prathamam.

⁴⁵ C: nātilīna nātyārabdhenā-. K: nātilīna nātyārahenāvīparītenārthopasaṃhitena.

⁴⁶ R: duṣkaraṃ vīryam.

⁴⁷ Tib: byañ chub sems dpa' mams kyi dka' ba'i brtson 'grus 'di sdud pa'i rgyu ni stobs dan sems can mams la sñin rje ba dan śes rab yin par rig par bya 'o. Ch: 如是菩薩難精進力當知即是緣有情悲及與般若能攝之因。

⁴⁸ R om. r.

⁴⁹ R: anutpādāyotpānnānāfca.

⁵⁰ K om. m.

⁵¹ W om. yad. C: yadutpannānām.

⁵² C om. tpa.

⁵³ R, K: asaṃmoṣāya. C, W: asaṃmoṣāyai.

(iii) tatra karmapariśodhakam bodhisattvasya vīryam, yat⁵⁴ trayāṇām karmaṇām viśuddhaye saṃgrahāya kuśalasya kāyakarmaṇo vākkarmaṇo manaskarmaṇaś ca.

(iv) tatra jñānavivardhakam bodhisattvasya vīryam, ^(w2B)yac chrutacintābhāvanāmayāḥ prajñāyāḥ samudāgamāya vivṛddhaye⁵⁵ saṃvartate.

5

(5) < satpuruṣavīrya >

tatra katamad bodhisattvasya satpuruṣavīryam. tat pañcavidhaṃ draṣṭavyam. (i) anirākṛtaṃ sarveṇa sarvaṃ chandaprayogānirākaraṇatayā, (ii) anyūnaṃ yathopāttatulyādhikavīryānubhāṇatayā, (iii) alīnaṃ uttaptadīrghakālikanirantaravīryārambhāyā-
10 samkucitāviśaṇnacittatayā⁵⁶, (iv) aviparītaṃ arthopasaṃhitopāyapariḡhītayā, (v) uttaptaprayogaṃ⁵⁷ ca bodhisattvānām vīryam anuttarāyām samyaksambodhāvabhitvaraṇatayā⁵⁸.

(6) < sarvākāraṃ vīryam >

15 tatra katamad bodhisattvānām sarvākāraṃ vīryam. tat ṣaḍākāraṃ⁵⁹ saptākāraṃ ca, aikādhyam abhisamkṣipya trayodaśākāraṃ veditavyam.

(i) sātatyavīryam⁶⁰ nityakālaprayogitayā⁶¹. (ii) satkṛtyavīryam nipuṇaprayogitayā⁶².
(iii) naisyandikaṃ⁶³ vīryam pūrvahetubalādhānatayā⁶⁴. (iv) prāyogikam vīryam⁶⁵ pratisamkhyāya pratisamkhyāya⁶⁶ kuśalapakṣaprayogitayā. (v) akopyavīryam sarvaduḥkha-
20 samsparsair avikopyatayā⁶⁷ ananyathābhāvopagamanatayā⁶⁷ (vi) asaṃtuṣṭivīryam alpā-

⁵⁴ C, K om. t.

⁵⁵ Du: parivṛddhaye. R, C, K, W: vivṛddhaye. Tib: mam par 'phel par byed pa.

⁵⁶ R, K om. ya, and reads: -vīryārambhāsamkucitā.

⁵⁷ R: ātaptaprayogaṃ ca.

⁵⁸ W: abhikaraṇatayā. Tib: rīns pa'i phyir, Ch: 速進緣故.

⁵⁹ C adds ca.

⁶⁰ C: sātatyavīryam. K: sātatyavīryam nitya-. Cf. above and below, (2) (b) (vi): sātatyaprayogitvāt; (9) (iii): sātatyasatkṛtyaprayogitayā.

⁶¹ R: -prayogatayā.

⁶² C repeats satkṛtyavīryam nipuṇaprayogitayā.

⁶³ C om. ṃ.

⁶⁴ R, K, Du add vīrya and read: pūrvavīryahetubalādhānatayā. Tib: sñon gyi rgyu'i stobs kyis bskyed pa'i phyir, Ch: 先因力所任持故.

⁶⁵ R om. ṃ.

⁶⁶ K repeats pratisamkhyāya, neither do R, C, W, Du. Tib repeats: so sor brtags śīn brtags śīn. Ch: 數數思擇種種善品正加行故.

⁶⁷ K: 'nanyathābhāvo-.

varamātraviśeṣādhigamāsamtuṣṭatayā⁶⁸.

idaṃ tāvat ṣaḍvidhaṃ sarvākāraṃ vīryam, yena samanvāgato bodhisattva ārabdhavīryaḥ⁶⁹ sthāmavān⁷⁰ vīryavān utsāhī dṛḍhaparākramo 'nikṣiptadhuraḥ⁷¹ kuśaleṣu dharmeṣv ity ucyate.

- 5 saptavidhaṃ punaḥ. (i') chandasahagataṃ bodhisattvasya vīryaṃ punaḥpunar⁷² anuttarāyāṃ samyaksaṃbodhau tivraccchandapraṇidhānānubṛṃhaṇatayā⁷³. (ii') sāmya-yuktaṃ bodhisattvasya vīryaṃ yad anyatamena kleśopakleśenāsamkliṣṭacetaso 'paryavasthitasya⁷⁴ yena vīryeṇa bodhisattvaḥ kuśaleṣu⁷⁵ dharmeṣu^(W204) tulyacittavihārī⁷⁶ saṃbhavati. (iii') vaiśeṣikaṃ vīryaṃ bodhisattvasya, anyatamenopakleśenopakliṣṭa-
- 10 cetasaḥ⁷⁷ paryavasthitacetasaḥ⁷⁸ tasyopakleśasya⁷⁹ prahāṇāya yad ādīptaśironirvāṇo-pamaṃ⁸⁰ vīryam. (iv') eṣakaṃ⁸¹ vīryaṃ bodhisattvasya sarvavidyāsthānaparyeṣaṇa-tayā⁸². (v') śikṣāvīryaṃ bodhisattvasya teṣv eva paryeṣiteṣu⁸³ dharmeṣu yathāyogyaṃ⁸⁴ yathārhaṃ dharmānudharmapratipattisaṃpādanatayā⁸⁵. (vi') parārthakriyāvīryaṃ bodhi-
- 15 sattvasya pūrvavad ekādaśavidhaṃ⁸⁶ veditavyam. (vii') ātmanaḥ samyak-prayogārakṣāyai skhalitasya ca^(Da 140) yathādharmapratikaraṇatāyai vīryaṃ saptamaṃ bodhisattvasya.

iṇḍaṃ trayodaśākāraṃ bodhisattvasya vīryaṃ⁸⁷ sarvākāraṃ ity ucyate.

⁶⁸ K: -dhimamā- instead of -dhigamā-.

⁶⁹ K: ārabdha/vīryaḥ. (sic.)

⁷⁰ C: sthāmavāṇ.

⁷¹ C: -kramo nikṣiptadhuraḥ.

⁷² C: punar instead of punaḥpunar. Tib: phyi phyir zin, Ch: 數.

⁷³ C: -ānubṛṇhātanaṭatayā(?).

⁷⁴ C,K: -cetaso paryavasthitasya.

⁷⁵ C om. ṣu.

⁷⁶ R: tulocittavihārī bhavati, C,K,W: tulyocittavihārī bhavati, Du: tulyocittavihārī saṃbhavati. Tib: mthun zin mal 'byor du gnas par 'gyur la.

⁷⁷ R: anyatamonopakleśeno-. Ch: 隨一根本煩惱及隨煩惱染心.

⁷⁸ Du: [paryavasitacetasaḥ](sic.). Tib: sems kun nas dkris pa'i. R,C,K,W: paryavasthitacetasaḥ.

⁷⁹ Ch: 爲斷如是諸煩惱故.

⁸⁰ K: nirvāṇapomaṃ. Tib: mgo la me 'bar ba gsod pa lta bu'i; Ch: 如滅頭然(or 如救頭然).

⁸¹ K om. ṃ.

⁸² Ch: 勇猛勤求一切明處無厭倦故.

⁸³ K: paryavasiteṣu. Tib: yonś su btsal ba'i chos.

⁸⁴ R,C,K,W: yathāyogyaṃ.

⁸⁵ R,K: dharmasyānudharmapratipatti-.

⁸⁶ W: ekādaśaparakāraṃ.

⁸⁷ K om. ṃ.

(7) < vighātārthikavīrya >

(8) < ihāmutrasukhaṃ vīryam >

vighātārthikavīryaṃ cehāmutrasukhaṃ⁸⁸ ca bodhisattvānāṃ vīryaṃ⁸⁹ kṣāntivad
5 draṣṭavyam. tatrāyaṃ viśeṣaḥ : yā tatra kṣāntiḥ seha⁹⁰ vīryam abhyutsāho vaktavyaḥ.

(9) < viśuddhaṃ vīryam >

tatra katamad bodhisattvasya viśuddhaṃ vīryam. tat samāsato daśavidhaṃ
veditavyam. (i) anurūpaṃ (ii) abhyastaṃ (iii) aślathaṃ (iv) sugrhitāṃ (v)
10 kālābhyaṣaprayuktaṃ (vi) nimittapratiavedhayuktaṃ (vii) alīnaṃ (viii) avidhuraṃ (ix)
samaṃ (x) mahābodhipariṇāmitaṃ⁹¹ ceti.

(i) iha bodhisattvo yena yenopakleśenātyarthaṃ bādhyate tasya tasyopakleśasya
prahāṇyānūrūpaṃ pratipakṣaṃ bhajate. ⁹²kāmarāgasya⁹³ pratipakṣeṇa⁹⁴ aśubhāṃ bhāva-
yati, vyāpādapratipakṣeṇa maitrīm, mohapratipakṣeṇedampratyayatāpratītyasamutpādaṃ
15 bhāvayati, vitarkapratipakṣeṇa⁹⁵ ānāpānasmṛtiṃ, mānapratipakṣeṇa dhātuprabhedam
bhāvayati. idam evaṃbhāgiyaṃ bodhisattvasya⁹⁶ "anurūpaṃ vīryam"⁹⁴ ity ucyate. ^(W205)

(ii) iha bodhisattvo na⁹⁷ ādikarmikatatprathamakarmikavīryeṇa samanvāgato bhavati.
yad uta cittasthitaye 'vavādānuśāsanyāṃ⁹⁸ nānyatrābhyastaprayogo bhavati paricita-
prayogaḥ. itidaṃ⁹⁶ bodhisattvasya⁹⁷ "abhyastaṃ⁹⁷ vīryam" ity ucyate.

20 (iii) na⁹⁸ cāpi bodhisattvo 'bhyastaprayogo bhavaty avavādānuśāsanyāṃ cittasthitim⁹⁹
ārabhya, api tv ādikarmika iva¹⁰⁰ san bodhisattvas tasmin prayoge 'ślathaprayogo bhavati
sātatyasatkrīyaprayogitayā¹⁰¹. itidaṃ bodhisattvasya⁹⁷ "aślathaṃ vīryam" ity ucyate.

⁸⁸ K : cehāmaṃtrasukhaṃ.

⁸⁹ K om. ṃ.

⁹⁰ K : saha.

⁹¹ C, W, Du : -pariṇāmitam.

⁹² On the following five ideas i.e. aśubhā, etc., cf. ŚBh II 58-107.

⁹³ K om. sya.

⁹⁴ R om. vīryam. Tib: 'tsham pa'i brtson 'grus zes bya 'o, Ch: 名菩薩相稱精進.

⁹⁵ C, W om. ṃ. K: n instead of ṃ.

⁹⁶ C, W om. iti.

⁹⁷ R, K, W om. ṃ. C: sya instead of ṃ.

⁹⁸ R: no cāpi. K: nodhāpi.

⁹⁹ R: -sthitimārasabhyāpi tv ādi-; C: -sthitayārabhyāpi tv ādi-.

¹⁰⁰ R: eva san; C, W, Du: eva sa; K: eva sam. Tib: las dan po pa ṇid yin bzin (zin : P) du.

¹⁰¹ K: -prayogatayā. Cf. above, (2) (b) (ii): gādhaṃ satkrīyaprayogitvāt; (vi): pratataṃ sātatyaprayogitvāt;

(iv) punar bodhisattvo gurūṇām¹⁰² antikāt svayam eva vā bāhuśrutyabalādhānatayā[^] 'viparītagrāhitayā cittasthitaye vīryam ārabhate. itīdaṃ bodhisattvasya "sugrāhitaṃ"¹⁰³ vīryam" ity ucyate.

(v) punar bodhisattva evam aviparītagrāhī¹⁰⁴ śamathakāle śamathaṃ bhāvayati, 5 pragrahakāle cittaṃ¹⁰⁵ pratigraṇāti, upekṣākāle[^] upekṣāṃ bhāvayati. idam¹⁰⁶ asya "kālaprayuktavīryam" ity ucyate. (Du 142)

(vi) punar bodhisattvaḥ śamathapragrahopekṣānimittānāṃ samādhisthitivyutthāna-nimittānāṃ¹⁰⁷ copalakṣaṇāsampramoṣaprativedhāya¹⁰⁸ sātatyakārī bhavati satkṛtyakārī. itīdaṃ¹⁰⁹ bodhisattvasya "nimittaprativedhavīryam"¹¹⁰ ity ucyate.

10 (vii) punar bodhisattvaḥ paramodārāṇ¹¹¹ paramagambhīrāṇ acintyāṇ aprameyāṇ bodhisattvānāṃ vīryārambhanirdeśān śrutvā nātmānaṃ paribhavati na saṃlīnacitto¹¹² bhavati, nāpi cālpamātrakeṇāvaramātrakeṇa viśeṣādhigamena saṃtuṣṭo bhavati, nottari na¹¹³ vyāyacchate. itīdaṃ^(W206) bodhisattvasya[^] "alīnavīryam"¹¹⁴ ity ucyate.

(viii) punar bodhisattvaḥ kālena kālam¹¹⁵ indriyair guptadvāratāṃ bhojane mātrajñātāṃ 15 pūrvarātrāpararātrāṃ¹¹⁶ jāgarikānuyuktatāṃ saṃprajānavihāritāṃ¹¹⁷ ity evaṃbhāgyāṇ samādhisaṃbhārāṇ samādāya vartate, teṣu codyukto bhavati, aviparītaṃ cārthopa-saṃhitaṃ sarvatra¹¹⁸ yatnam ārabhate. itīdaṃ bodhisattvasya[^] "avidhuravīryam"¹¹⁹ ity

(6) (i) and (ii): sātatyavīryaṃ nityakālaprayogitayā, satkṛtyavīryaṃ nipuṇaprayogitayā.

¹⁰² Du: gurūṇām.

¹⁰³ R,K om. ṃ.

¹⁰⁴ C: apiparītagrāhī.

¹⁰⁵ K: pragrāhāti instead of cittaṃ pratigraṇāti. Tib: rab tu 'dsin pa'i dus su ni sems rab tu 'dsin cin.

¹⁰⁶ K: iyaṃ instead of idam. R: iyaṃ asya kālaprayuktavīryatety ucyate. Tib: 'di ni de'i dus su brtson pa'i brtson 'grus zes bya 'o. Du: idam asya kālaprayuktaṃ vīryam ity ucyate. Ch: 是名菩薩應時修習相應精進.

¹⁰⁷ Tib: tññe 'dsin la 'jug pa dañ tññe 'dsin la gnas pa dañ ldañ ba'i mtshan ma mams. Ch: 入住出相.

¹⁰⁸ K repeats pramoṣa.

¹⁰⁹ C,K,W om. iti.

¹¹⁰ Du: -prativedhaṃ vīryam. Cf. Ch: 是名菩薩通達衆相相應精進.

¹¹¹ R: paramodānānaparama-. C,W: paramodārāṇ parama-.

¹¹² R: saṃlīnacitto, K,C(?), W: saṃlīnacitto, Du: saṃlīnacitto.

¹¹³ K: ta.

¹¹⁴ Du: bodhisattvasyālīnaṃ vīryam.

¹¹⁵ On the following ideas i.e. indriyair guptadvāratā, etc., cf. ŚBh I 31*, 2ff. 50*, 2-3, etc.

¹¹⁶ K om. ṃ.

¹¹⁷ R,K: saṃprajānavihāritāṃ, C(?), W: saṃprajānaṃvihāritāṃ, Du: saprajānaṃ vihāritāṃ. Cf. ŚBh I 10*, 4; 86*, 2.

¹¹⁸ W: sarvatra-yatnam.

ucyate.

(ix) punar bodhisattvo nātīlīnaṃ nātyārabdhaṃ vīryam ārabhate samaṃ yogavāhī¹²⁰, sarveṣu cārambhakaraṇīyeṣu¹²¹ samaṃ satkṛtyakārī¹²² bhavati. iyaṃ bodhisattvasya "samavīryam"¹²³ ity ucyate.

- 5 (x) punar bodhisattvaḥ sarvavīryārambhān¹²⁴ abhisamṣkṛtān anuttarāyāṃ samyak-sambodhau pariṇāmayati¹²⁵. idaṃ bodhisattvasya "samyakpariṇāmitaṃ"¹²⁶ vīryam" ity ucyate.

- 10 ity etat svabhāvavīryādikaṃ viśuddhavīryāvasānaṃ ca bodhisattvānāṃ vīryaṃ mahābodhiphalaṃ yad āśrītya bodhisattvā vīryapāramitāṃ paripūrayitvā¹²⁷ anuttarāṃ¹²⁸ samyak-sambodhim abhisambuddhā abhisambhotsyante 'bhisambudhyante ca.

iti¹²⁹ bodhisattvabhūmāv ādhāre yogasthāne dvādaśamaṃ¹³⁰ vīryapaṭalaṃ samāptam /

15

119 C,W,Du: bodhisattvasyāvidhuraṃ vīryam.,

120 R,C,K: yogavāhī. W: yogavāhī. For samaṃ yogavāhī, Tib: sbyor ba sñoms par byed ciñ; Ch: 平等雙運.

121 K om. ye.

122 R: patkṛtyakārī.

123 Du: samaṃ vīryam ity, R,C: samavīryam ity; K,W: samavīryatety.

124 K: -vīryārambhan.

125 C,W,Du: pariṇāmayati.

126 C,W,Du: -pariṇāmitaṃ. For samyakpariṇāmitaṃ vīryam, Ch: 迴向大菩提精進, Tib: yañ dag pa'i yonṣ su bsño ba'i brtson 'grus.

127 C,W,Du: paripūrya.

128 C: anuttarāyāṃ.

129 R,K,W om. iti.

130 R,K om. ma.